



日本リハビリテーション医学会ニュース

リハニュース No.42

発行：社団法人 日本リハビリテーション医学会 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6丁目32番3号 Tel 03-5206-6011
Fax 03-5206-6012 ホームページ <http://www.jarm.or.jp/> 年4回1、4、7、10月の15日発行 1部100円

特集
1

2009年度介護報酬改定に関して

日本リハビリテーション医学会 社会保険等委員会担当 理事 水間 正澄

はじめに

本年度は2006年に引き続いて介護報酬の改定が行われましたが、幅広い見直しが行われ、それに基づき多くの改定がなされました。また、介護度の認定についての批判もあったため、改定にあわせて要介護認定制度についても見直しが行われました。

ここでは介護報酬改定の概要と本医学会の取り組み、ならびに今後の方向性についてご報告します。

目次

- 特集1：2009年度介護報酬改定に関して……………1-2
- 特集2：診療報酬改定に向けて……………3
- 第46回学術集会：印象記・報告……………4-5
- 専門医会コラム：第4回学術集会プログラム……………6-7
- 2008年度論文賞受賞者紹介……………8
- 2008年度海外研修助成印象記……………9
- 2008年度外国人リハ医交流印象記……………10
- リハ医への期待(4)：RA患者の生きるための叫び……………11
- INFORMATION：システム委員会、認定委員会、障害保健福祉委員会、評価・用語委員会、脳卒中治療ガイドライン策定委員会、広報委員会、北海道地方会、北陸地方会、中部・東海地方会、近畿地方会、九州地方会……………12-13
- 医局だより：大阪医科大学……………14
- REPORT：春期医学生リハセミナー報告、市民公開講座(大分)、第50回日本神経学会……………14-15
- 広報委員会より……………15
- お知らせ……………18

広告：医歯薬出版(株)、金原出版(株)、武田薬品工業(株)、万有製薬(株)、エーザイ(株)

介護報酬改定の骨子

2009年度の介護報酬改定は、①介護従事者の人材確保・処遇改善、②医療との連携や認知症ケアの充実、③効率的なサービスの提供や新たなサービスの検証の3つの基本的な視点に立って行われました。

介護報酬改定の内容

1. 介護従事者の人材確保・処遇改善

1) 負担の大きな業務への評価

業務量が多く負担もかかる業務、例えば施設における夜勤業務、重度・認知症対応など、サービス特性に応じた報酬上の評価がなされた。

2) 専門性・質の評価

介護福祉士が一定割合雇用されている事業所が提供するサービスや、一定以上の勤続年数を有する者が一定割合雇用されている事業所が提供するサービスについては、評価を行い必要な加算が算定される体系が作られた。

3) 地域ごとの人件費をふまえた評価

介護事業者の給与は地域差が大きく、大都市の事業所ほど給与費が高く経営を圧迫する傾向にあることから、介護報酬における地域差の勘案方法等の見直しが行われた。

また、中山間地域等にある小規模事業所の評価、中山間地域等に居住する者にサービス提供した事業所への評価もなされた。

2. 医療との連携や認知症ケアの充実

1) 医療と介護の機能分化・連携の推進

医療保険から介護保険でのリハビリテーション(以下、リハ)へのスムーズかつ効果的な移行を進めるにあたり、現在の介護保険下でのリハ実施機関数・リハ内容等の問題点を踏まえた見直しがなされた。また、利用者の状態に応じた訪問看護の充実を図る観点からの評価の見直しや、居宅介護支援における入院時や退院・退所時の評価がなされた。

介護療養型老人保健施設については、療養病床からの転換が円滑に進められるよう評価の見直しが行われた。また、医療と介護との連携の強化・推進を図る観点から、入院時や退院・退所時に病院等と利用者に関する情報共有を行う際の評価を導入した。

2) 認知症高齢者等の増加をふまえた認知症ケアの推進

認知症高齢者やその家族が住み慣れた地域での生活を継続できるようにするとともに、認知症ケアの質の向上を図るため認知症行動・心理症状への緊急対応や若年性認知症の受け入れへの評価、認知症高齢者等へのリハの対象拡大、専門的なケア提供体制に対する評価等がなされた。

3. 効率的なサービスの提供や新たなサービスの検証

介護サービス事業の運営の効率化を図るため、サービスの質の確保を図りつつ、人員配置基準等の見直しを行う。2006年度に新たに導入された各

種サービス（新予防給付・地域密着型サービス等）の検証および評価の見直しがなされた。

リハに関わるサービスの見直し内容

1. 短期入所リハ

短期入所中の集中的リハの効果が高いことから介護老人保健施設における短期入所療養介護について個別リハの提供を評価し実施加算が認められた。（理学療法士（PT）/作業療法士（OT）/言語聴覚士（ST）が1日20分以上の個別リハを行った場合）

2. 特定短期入所療養介護

日帰りの短期入所療養介護について、現在の1日単位の評価からサービス提供時間に応じた評価に見直された。

3. 訪問リハ

- 1) サービス提供時間に応じた評価への見直しがなされた。
- 2) 通所リハを終了した者について、介護老人保健施設の医師の指示による訪問リハの評価がなされた。
- 3) 短期集中リハ加算の評価の見直しがなされた。

4. 通所リハ

- 1) 短時間（1～2時間）通所リハが導入された。
- 2) リハマネジメント加算の見直しがなされた。ただし、月8回以上利用しなければ算定できない。
- 3) 短期集中リハ実施加算の見直しがなされた。（退院・退所後1カ月以内、1～3カ月）
- 4) 個別リハ実施加算
- 5) 認知症短期集中リハ加算

日本リハ医学会の取り組み

日本リハ医学会では今回の介護報酬改定にあたって社会保険等委員会を中心に検討を重ね改定に対しての提言をまとめました。その内容は、①適正な介護報酬、②医療保険から介護保険のリハへのスムーズな移行、③書式の簡素化です（表）。

この提言はリハ関連5団体連絡協議会*に提示され、各団体からの提言や要望も含めて議論を重ねてまいりました。これらの結果は社会保障審議会介護給付費分科会などにおける議論にも

反映されました。さらに、学会独自に社会保険等委員会委員と老健局老健課との意見交換の場を設け本医学会の考えを述べました。まだまだ課題は残りますが今回の改定においては介護保険におけるリハに対する適正な報酬や、医療保険のリハから介護保険のリハへのスムーズな移行などに関しては本医学会からの提言に理解をいただけたものと考えています。

また、リハが充実することによって介護支援専門員（ケアマネジャー）にもリハへの一層の理解が求められることとなります。介護支援専門委員の育成についても本医学会からの提言で掲げていましたが、介護支援専門員協会からの依頼に基づき「介護支援専門員の医療的ケアの知識向上のための調査事業」にリハ関連5団体連絡協議会の各団体とともに加わり支援を行いました。本年度は「介護支援専門員のリハの知識習得に向けた研修会」のテキスト作成や研修プログラムの作成にも関わっていく予定となっています。

これから

今回は介護保険におけるリハに関してさまざまな見直しが行われましたが、今後はその検証も必要となっており、現場でもまだ手探りの部分があるようであり一定の期間を経てから、改正後にどのような変化があったかの検証を行う予定であり、社会保険等委員会ではアンケート調査などの実施も検討しておりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

今後、2012年度には診療報酬・介護報酬の同時改定が行われますが、大幅な改定も予想されます。3年後に向けてリハ関連5団体連絡協議会や日本整形外科学会等の関連医学会とのより一層の連携のもとに医療と介護のリハの充実を目指していく必要があると考えております。

*リハビリテーション関連5団体連絡協議会
日本リハビリテーション医学会、日本リハビリテーション病院・施設協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の5団体から構成され、定期的に協議・情報交換等を行っている。

日本リハビリテーション医学会からの提言（抜粋）

1. 適正な介護報酬に関して

- (1) 介護保険におけるリハの報酬は、療法士の人件費をまかなえる報酬とすべき。
- (2) 通所リハや入所施設においても医師の指示に基づいて必要な種類・時間のリハを受けられるようにすること。リハの報酬は提供時間に見合ったものとし、リハ専門職の配置基準を手厚くすること。
- (3) 通所サービス等における送迎はコストを適正に配慮した加算に戻す必要がある。
- (4) 環境整備のための住宅改造や福祉機器の設置なども含め、制度上必要なサービスが受けられないような場合に、一定の手続きを経て例外的な給付を認めることも考慮する必要がある。

2. 医療保険のリハから介護保険のリハへのスムーズな移行に関して

- (1) 短時間型通所リハや介護保険での通院リハを創設すること。
- (2) 医師の判断により医療保険でのリハと介護保険でのリハを移行ないし併用できる。
- (3) 訪問リハと訪問看護7の報酬、サービス体系を統一し、医師の指示書に基づいて、必要に応じた頻度・時間のリハを行えるようにすること。

3. 書式の簡素化に関して

- (1) 意見書や指示書などにおいて重複する書類は可能な限り簡素化する必要がある。

4. その他

- (1) リハ関連5団体連絡協議会の構成団体は、研修会の開催などにより維持期リハに関する一定の見識を持つ医師やリハ専門職およびケアマネジャーの育成を行う。


 特集
2

診療報酬改定に向けて

日本リハビリテーション医学会 社会保険等委員会担当 常任理事

吉永 勝訓

はじめに

社会保険等委員会(以下、本委員会)の担当理事は現在2名体制で、診療報酬の全体調整と内保連関係を吉永が、外保連および介護報酬関係は水間理事が主に担当しています。診療報酬の改定は基本的には2年毎であり、今回は2010年春に行われます。本委員会では今まで診療報酬改定のたびにその概要を学会誌に報告するとともに、改定に対するアンケート調査を学会内部で行ってその結果を学会誌に報告してきました。また毎回の改定に向けては、内保連や外保連を通しての活動、厚生労働省との話し合い、関係団体との連携などを継続して行っています。その資料作りとしてアンケート等の実施、モニター専門医にもご協力いただいたの各種データの収集、提案書や報告書の作成など、どれも短時間でまとめなくてはならない大変な作業ですが、本委員会委員の先生方と事務局担当者には献身的に従事していただき、とても感謝しております。

内保連について

各学会から新しい技術等の保険取組を厚生労働省に要望するルートには、三保連(内保連・外保連・看保連)ルート、日本医師会ルート、大臣宛要望書直接提出の3つがあります。ここでは特にその基本になる三保連ルートのうち内保連(内科系学会社会保険連合)を通しての活動を紹介します。内保連の加盟学会は現在101学会(外科系も数学会加盟)であり、領域別に21委員会が設けられています。最終的には提案書は各学会から内保連に提出しますが、各領域別委員会では所属各学会からの要望を事前に取りまとめたり共同提案への協力を募ったりしています。本医学会は15学会が加盟するリハビリテーション関連委員会の議長学

会であるほか、神経関連委員会と呼吸器関連委員会に属しています。

今年度の活動状況

今年度はリハ関連委員会を1月末に開催し、それまでにリハ関連委員会所属学会への20年度診療報酬改定に関するアンケート調査、各学会のリハ関連要望事項調査とその整理などの準備を済ませ、委員会当日には各学会からの要望事項の説明を踏まえて、学会間での共同提案協力を募るとともに情報交換を行いました。その後は本委員会委員による新規提案書の作成、関連学会からの提案書を本医学会事務局経由で各学会へ配信、そして最終的な共同提案の取りまとめや本医学会からの提案書の内保連への提出を、最後は大変忙しい作業でしたが4月上旬に済ませました。今回リハ関連委員会が扱った提案は28件(本医学会からはうち11件)で、その他にリハ関連委員会以外からの共同提案への協力など10件を加えた38件の提案書を本医学会から内保連事務局に提出しました。一方外保連経由でも5件の提案書を提出しています。なお、本委員会で作成したこれらの提案書等については、役員会にも報告してご意見を頂きながら作業を進めてきています。将来的にはWebを使ってより広い学会員からの意見を頂戴する工夫も必要と考えております。

提案書には既掲載のものと未掲載のものがありますが、未掲載提案の場合には要望の根拠となるエビデンスを含む文献等を添付した詳細版の作成が必要となります。また提案書のうち、診療報酬点数表の第2章2部~13部に関する内容は、中医協医療技術評価分科会に送られて一次、二次の評価を受け、提案書の十数%がそこで生き残り中医協基本問題小委員会に送られて更に審議された後に改定案に盛り込まれ

ます。一方、それ以外の提案書(入院基本料など)は内保連代表から医療技術評価分科会を通さずに直接保険局医療課長に提出され、医療課内の検討で取捨選択されたうえで中医協基本問題小委員会に送られるという複雑な段取りとなっています。

本年度は5月中旬に内保連代表によるヒアリングがありました。与えられた時間は15分間でしたが、本医学会の提案の中でも本委員会内での検討で上位においた数提案(例えば回復期リハ病棟の要件変更に関するものなど)についてはその必要性についてご理解いただけた感触を持っています。現在2008年改定のリハ関連項目の検証が厚労省で行われており、何らかのデータを本医学会に求められる可能性もありますので、現在本委員会では研修指定病院を対象に回復期リハ病棟に関するアンケート調査を実施しております。8月には医療課による各学会ヒアリングが行われる予定であり、厚労省は来春に向けた本格的な改定作業に移っていきます。

2012年に向けて

ところで2012年には診療報酬改定と3年毎に行われる介護報酬改定が同時に行われます。これは2000年度に介護保険制度や回復期リハ病棟がスタートしてから2回目の同時改定であり、医療と介護、そして急性期から維持期にわたるリハ体系の整合性が2012年度に向けて行われ、その後のわが国のリハ展開にも大きな影響を与えることとなります。そのため本委員会でも今年度から2012年改定を見据えた活動を開始する予定です。今後のアンケート調査等には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

第46回 日本リハビリテーション医学会学術集会

印象記

東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学教室 笠原 隆

2009年6月4～6日の3日間、第46回日本リハ医学会学術集会が慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター木村彰男先生会長のもと、「リハビリテーション医学—夢と希望への挑戦—」をメインテーマに静岡県コンベンションセンターグランシップで開催されました。静岡駅から1つ隣の東静岡駅から徒歩3分と近く、生憎の小雨が降る天候でしたが屋根付きの歩道が整備されていたため濡れずに会場へアクセスできました。

会場は、メインテーマにあった新しく近代的なデザインで設備は新しく快適でした。ポスター会場も広く、演者とのディスカッションも盛んに行われていました。会場周辺に食事を摂る場所が少ないものの12ものランチョンセミナーが用意されていて昼食に困ることはありませんでした。

木村彰男先生による会長講演では、EMGバイオフィードバックからブレインマシンインターフェース（BMI）までリハ医学における電気診断およびその治療へ応用の歴史をレビューしたかのような御講演で、絶妙なユーモアを交え述べられました。

宇宙飛行士、向井千秋先生の特別講演では、美しい宇宙空間の画像や船内活動の様子などを動画で交えながら、無重力空間での滞在が身体に及ぼす影響やJAXA宇宙航空研究開発機構の取り組みについて述べられました。骨、筋萎縮、起立性低血圧やこれらに伴い増加する転倒リスクなど、無重力の影響はあたかも高齢者に生じる廃用症候群に近似した病態であり、それが宇宙空間では凄まじい早さで短期的に生じること、さらに



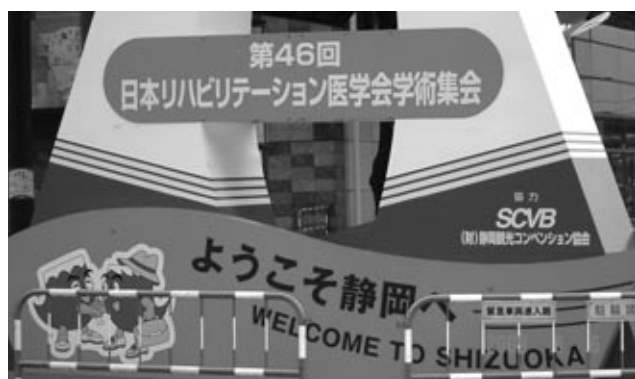
彼ら宇宙飛行士が地上に帰還し職場復帰するまでに長いリハの期間を要するという点に驚かされました。日本が継続的に実験を行う権利を有する宇宙ステーションの実験棟「きぼう」には、今後日本人宇宙飛行士が常時1名滞在する予定で、彼らの滞在中の運動プログラムおよび帰還後のリハプログラムの向上への取り組みが始まっており、宇宙という夢の空間においてリハ医学の重要性が認識されている点には感動すら覚えました。

同日、夕方からの先端シンポジウムでは、「宇宙からみたリハ医学」というテーマで各シンポジストより詳細に報告がされ、興味深く拝聴しました。招待講演ではRobinson教授による外傷性末梢神経障害の電気診断について非常に解り易く、さらに質疑ではKimura教授との間でディスカッションになる等、極めて印象的な講演でありました。

2日目機器展示会場では、財団法人鉄道弘済会による自転車競技用義足や、慶應義塾大学とコナミの共同開発による新しい自転車エルゴメーターのデモンストラーションが行われました。いずれも多く聴衆に囲まれ熱心な意見交換がやり

取りされていました。また専門医会では、経験豊かな先生から、症例を交えながら具体的な「リハ処方」が提示されました。先端的な治療とその効果が提示され非常に興味深く勉強になりました。立ち見が出るほどの盛況で、聴衆との熱い討論も続きました。

3日目の先端シンポジウムでは「ブレインマシンインターフェースはリハに何をもたらすか」というテーマで日本のBMI研究を引っ張る先生方から最先端の研究報告がなされました。内容は、基礎の分野から、患者さんに施行された具体例まで動画をふんだんに交え提示していただきました。現状報告にとどまらず、今後の研究課題が提示され、まさに「夢と希望への挑戦」というテーマにあ

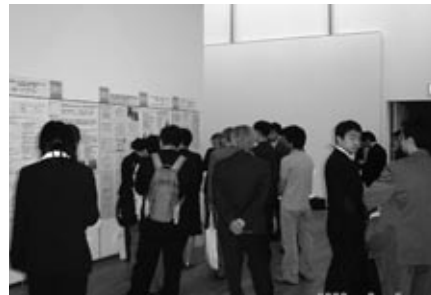


った内容でした。

このほかにも、招待講演や教育講演、ランチョンセミナーなど、アジアを中心に海外からいらした多くの先生がご講演をしてくださり、非常に国際色豊かな充実した内容でした。

学会直前に新型インフルエンザ騒動もあり、準備・運営に携わった多くの先生

方は大変御心配されたことと思います。しかし最終的に2,600名を超える参加者があったとのことで、大成功だったのではないのでしょうか。このような素晴らしい学術集会を成功裏に運営された慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターおよび医学部リハ医学教室スタッフの皆様にご心より感謝いたします。



第46回学術集会を終えて

幹事 長谷 公隆

第46回学術集会は、新型インフルエンザへの対応で開催が危ぶまれた時期もございましたが、2,600名を上回る諸先生をお迎えして、有意義かつ活発な意見交換を賜り、盛会裏に終えることができました。これもひとえに会員の皆様、学術集会関係各位のご協力、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本学術集会ではメインテーマとして掲げた「夢と希望への挑戦」に準じて、リハ医学が取り組むべき臨床・研究・教育のテーマを様々な切り口で取り上げ、特別講演、招待講演、シンポ、パネルとして企画いたしました。演者ならびに座長の諸先生のお力添えにより、リハ医療の現場から先端医学の分野に溢れる「夢と希望」を静岡の地で共有することができました。また、一般演題の各会場でも、同一領域のセッションの重複回避がある程度調整できたこともあり、数多くの先生にお集まりいただき、活気漲る討論が随所でみられました。参加者の皆様にはそれぞれが、明日のリハ診療に役立つ糧を得ていただけたのではないかと思います。一方、学術

集会が担っていかなくてはならないもう一つの重要な役割が、生涯研修の場を提供する機能です。教育講演では、リハに携わる医師が履修しなくてはならないすべての領域が網羅されるように企画しました。リハ医療における神経生理学の臨床的意義を世界レベルで語る特別教育セッションは、国際的水準での教育研修を目指した今回の新たな試みでした。教育講演には、予測を上回る聴講者のご参集をいただき、一部の先生にはご不便をお掛け致しましたことを深くお詫び申し上げますとともに、これらの継承すべき学会プログラムのあり方について申し送ってまいりたいと存じます。県民・市民公開講座では、日本の医療をめぐる熱のこもったご講演とともに、300名を超える皆様との密度の濃い意見交換ができました。ご講演を賜りました宇沢弘文先生には、学術集会終了後に、地球環境国際賞であるブループラネット賞を受賞されましたことを、この場を借りてお祝い申し上げます。また、一般公開とした機器展示では、金融危機の荒波を乗り越えて、各種のイベントを企画し、魅力ある展示スペースをご提供できたのではないかと思います。

学会準備ならびに運営におきましては、いろいろな面でご迷惑、ご不自由をおかけしたかと存じますが、ご容赦いただければ幸いです。次回、鹿児島での学術集会の成功を祈念して、第46回学術集会のご報告とさせていただきます。



第47回日本リハビリテーション医学会学術集会は、2010年5月20日（木）～22日（土）、鹿児島市民文化ホール・鹿児島サンロイヤルホテル・みなみホール（鹿児島）にて、会長：川平和美（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学教授）のもと、テーマ「今日の先端科学を明日のリハビリテーションへ」で開催予定です。

専門医会コラム

第4回 リハビリテーション科専門医会学術集会プログラム

専門医会では、リハ科専門医の資質向上のため、また、リハ科専門医を目指す会員各位の生涯教育の場となるように、年に1回リハ科専門医会学術集会を開催しております。2009年は下記のスケジュールで開催の準備を進めています。なお、学術集会終了後、実技セミナーを同会場で開催する予定です。詳細につきましては、学会誌、ホームページなどに掲載させていただきます。また、学会誌等にて公示されておりますとおり、2008年4月からリハ科専門医の資格更新条件として認定期間中の専門医会学術集会への参加が必須となっております（学会誌第43巻12号792頁）。

リハ科専門医はもとより、専門医以外の医師の参加も可能です。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

開催時期：2009年10月16日(金)～18日(日)

会 場：下諏訪総合文化センター(下諏訪駅より徒歩10分)

〒393-8501 長野県諏訪郡下諏訪町4611番地40

TEL：0266-28-0018

参加費

区分	事前登録 (2009年8月31日(月)までに登録の方)	当日登録
専門医	10,000円	12,000円
専門医以外会員	10,000円	12,000円
非会員	10,000円	12,000円
学生・コメディカル	3,000円(事前・当日とも同額)	3,000円
	*実技セミナー以外のプログラム 全てに参加可能。	
意見交換会費	2,500円 *学術集会参加費とは別に必要。 10月17日(土) 18:00～20:30 (於：RAKO華乃井ホテル)	3,000円
実技セミナー (30名程度 先着順)	3,000円 *学術集会参加費とは別に必要。 申込方法は別紙参照。	なし

※事前登録方法：オンラインでご登録いただくか、別紙申込書をFAX送信してお申込みください。(詳細は、ホームページ・学会誌第46巻3号等をご参照ください)

※1・2日目のランチョンセミナーは無料です。セミナー開始前に先着順にチケットを配布し、セミナー終了後チケットをお持ちの方にお弁当をお渡しします。

※2日目のバスツアーは無料です。希望者は会場受付で予約し、先着30名で締め切ります。

※認定単位：専門医会学術集会参加(10単位)
+教育講演受講(10単位×3講演=30単位)

※教育講演受講カードは、受付される時間によりお渡しできる枚数が異なります。

10月16日(金)

9:40～9:45	開会式
9:45～11:45	シンポジウム「臨床に生かす動作解析」 座長 蜂須賀 研二(産業医科大学リハビリテーション医学講座) 山本 澄子(国際医療福祉大学大学院福祉援助工学分野) パネリスト 立位姿勢の解析……………長谷 公隆(慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室) 片麻痺の歩行分析……………大橋 正洋(神奈川リハビリテーション病院リハビリテーション科) 脊髄損傷の動作解析……………松永 俊樹(秋田大学医学部リハビリテーション部) 装具の動作解析……………山本 澄子(国際医療福祉大学大学院福祉援助工学分野) 失調患者の動作解析……………加賀谷 斉(藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座)
11:45～12:45	ランチョンセミナー「髄腔内バクロフェン持続注入」
11:45～13:00	meet to the Mentor* 千野 直一、米本 恭三、平澤 泰介、田中 信行
13:00～14:00	教育講演1.「片麻痺回復のための革新的リハを目指して：効率的な神経路再建/強化の理論と実際」 川平 和美(鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハビリテーション医学) 座長 原 寛美(相澤病院総合リハビリテーションセンター)
14:00～14:10	休憩
14:10～16:10	ポスター24題 一般演題口演10題 各最優秀賞1、優秀賞2 翌日意見交換会で表彰
16:10～17:10	代表世話人講演「脳性麻痺児のリハ処方と長期予後」 朝貝 芳美(信濃医療福祉センターリハビリテーション科) 座長 君塚 葵(心身障害児総合医療療育センターリハビリテーション科)

10月17日(土)

8:50~9:50	教育講演2.「チームワークとリーダーシップ」 才藤 栄一(藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座) 座長 水間 正澄(昭和大学医学部リハビリテーション医学教室)
9:50~10:00	休憩
10:00~11:00	教育講演3.「がんのリハビリテーション：進行がん患者への対応を中心に」 辻 哲也(慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室) 座長 生駒 一憲(北海道大学病院リハビリテーション科)
11:00~12:00	招待講演「What strategies can be employed to treat swallowing disorders and dysphagia?」 Prof. Arthur J. Miller (Div. of Orthodontics, Dept. of Orofacial Sciences, Univ. of California at San Francisco) 座長 藤島 一郎(浜松市リハビリテーション病院リハビリテーション科)
12:00~13:00	ランチョンセミナー「ボツリヌス菌毒素注射」
12:00~13:30	バスツアー 諏訪大社秋宮、春宮、信濃医療福祉センター
13:30~14:30	専門医会総会
14:30~16:00	パネルディスカッション「リハ専門医が彩る回復期リハ病棟」 座長 石川 誠(初台リハビリテーション病院リハビリテーション科) 園田 茂(藤田保健衛生大学七栗サナトリウムリハビリテーション科) パネリスト 梅津 祐一(小倉リハビリテーション病院リハビリテーション科) 赤星 和人(市川市リハビリテーション病院リハビリテーション科) 岡本 隆嗣(西広島リハビリテーション病院リハビリテーション科)
16:00~16:10	休憩
16:10~17:10	「小児リハ問題例の検討」 高橋 秀寿(杏林大学医学部リハビリテーション医学教室) 座長 岡川 敏郎(愛知県青い鳥医療福祉センターリハビリテーション科)
18:00~20:30	全員意見交換会 RAKO 華乃井ホテル

10月18日(日)

9:00~12:00	シンポジウム「摂食・嚥下の運動学」 座長 石井 雅之(川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科) 藤谷 順子(国立国際医療センターリハビリテーション科) パネリスト 摂食・嚥下解剖学のトピックス……………井出 吉信(東京歯科大解剖学) 嚥下造影からみた摂食・嚥下の運動学……………依田 光正(昭和大学保健医療学部理学療法学科) 嚥下内視鏡からみた摂食・嚥下の運動学……………藤島 一郎(浜松市リハビリテーション病院リハビリテーション科) 筋電図と嚥下圧からみた摂食・嚥下の運動学……………青柳 陽一郎(川崎医科大学リハビリテーション医学教室) CTからみた摂食・嚥下の運動学……………馬場 尊(藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科)
12:00~12:05	閉会式
13:00~15:00	実技セミナー**「小児運動機能評価」 近藤 和泉(藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所リハビリテーション部門)

**実技セミナー「小児運動機能評価」

日時：2009年10月18日(日) 13:00~15:00

場所：下諏訪総合文化センター

対象：日本リハビリテーション医学会会員

内容：近藤和泉先生によるGMFMやPEDIなどの
小児運動機能評価の実習

定員：30名程度(先着順)

申込方法：<http://www.cs-oto.com/4reha/registration.html>、
及び第46巻3号を参照

問合せ先：株式会社オフィステイクワン内

第4回リハビリテーション科専門医会学術集会 担当：鎌田、恒川

TEL：052-930-6145

備考：本セミナー参加による単位認定はありません。教材として「GMFM 粗大運動能力尺度(医学書院)3,000円」を使用いたします。参加される方は、予めご購入ないしご準備の上、会場に持参していただくことになります。なお当日、会場では販売いたしませんので、ご注意ください。

代表世話人：朝貝 芳美(信濃医療福祉センター)

専門医会ホームページ：http://www.jarm.or.jp/member/member_specialists/

問合せ先：○学術集会について……演題募集締切：8月17日(月)

信濃医療福祉センター 朝貝 芳美(TEL：0266-27-8414)

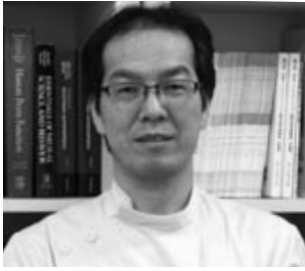
○事前参加登録について……登録締切：8月31日(月)

株式会社オフィステイクワン内 第4回リハビリテーション科専門医会学術集会
担当：鎌田、恒川(TEL：052-930-6145)

○宿泊案内について……宿泊申込締切：8月15日(土)

ジェイツアー担当：林、宮坂(TEL：0266-22-6644)

2008年度 論文賞受賞者紹介



最優秀論文賞受賞に際して

丸石 正治

(広島県高次脳機能センター)

このたびは名誉ある賞をいただき、ありがとうございます。これもひとえに、高次脳機能障害支援対策が全国レベルで進展している背景があったからこそこの評価だと思います。これまで頑張ってこられた当事者・家族、関係者の方々に感謝申し上げますとともに、今後も責任を自覚して活動していきたいと思えます。

本論文はごく簡単な方法でデータ解析しただけのもので、評価されたのは日頃の実践部分だったと感じています。これは、医師、訓練士、心理士、相談員、事務員が互いに連携・協力したチームアプローチの結果で、受賞の喜びをスタッフ全員で分かち合えることを嬉しく思います(ミンナ、アリガトウ!)。広島県でこのような活動ができたことは、それを支えてくださった施設職員・関係機関の方々のおかげで、あらためて感謝申し上げます。

障害者の世界にずっと身を置いてきて、数値で示すことができない「大切なこと」を沢山感じてきました。医師として、それをエビデンスまで昇華させるような仕事をしたいと思えます。これからもよろしくご指導の程お願い申し上げます。

略歴：

1983年防衛医科大学校卒業、同年防衛医科大学校付属病院脳神経外科、1990年井野口病院脳神経外科医長、1998年北海道大学医学部リハビリテーション医学講座助手、2001年広島県立身体障害者リハビリテーションセンター科長、2006年広島県高次脳機能センターセンター長

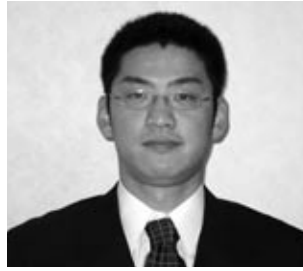
「最優秀論文賞」

種別：原著

掲載号：Jpn J Rehabil Med 45-2号113-119頁

題名：高次脳機能障害者の重症度と就労率

著者名：丸石 正治、近藤 啓太、上野 弘貴



優秀論文賞受賞に際して

笛吹 亘

(城北病院内科リハビリテーション科)

このたびはこのような名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。とても光栄に思っております。この論文の作成にあたっては、園田茂教授に多大なるご指導を賜りました。ご協力いただきました共著者の先生方、励ましてくださったたくさんの方々へ厚くお礼を申し上げます。

現在栄養サポートチーム(NST)として代表される栄養介入が日常診療として行われていますが、今回はリハ分野でその影響がどう現れているのかを調査しました。日頃の診療から得られたデータを用いて、NSTの介入が日常生活動作(ADL)能力向上に寄与しているかを機能的自立度評価法(FIM)を用いて分析しました。今後はリハ分野の栄養介入の具体的な指標についての検討も課題ではないかと思っています。

どの分野においても栄養管理は基本と言えますが、逆に当たり前すぎておろそかになる現実があります。栄養面からのアプローチは診療の主たるものにならないことが多いですが、決して欠かしてはならない視点であることをこの論文作成に当たり強く感じました。大変貴重な経験をしました。今後の診療に生かしていきたいと思えます。

略歴：

2000年3月旭川医科大学医学部卒業、4月石川勤労者医療協会城北病院(石川県金沢市)研修医、以後同院内科所属、2004年10月藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究員、2006年6月近森リハビリテーション病院(短期研修)、2006年10月城北病院内科リハビリテーション科医長(現職)

「優秀論文賞」

種別：原著

掲載号：Jpn J Rehabil Med 45-3号184-192頁

題名：脳卒中回復期リハビリテーションへの栄養サポートチーム介入

—Functional Independence Measureを用いた効果検証—

著者名：笛吹 亘、園田 茂、鈴木 亨、岡本 さやか、東口 高志、才藤 栄一



奨励賞受賞に際して

百崎 良

(東京慈恵会医科大学第三病院
リハビリテーション科)

このたびはこのような名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。研究、論文作成にあたりご指導いただきました安保雅博教授、菅原英和先生、査読に際してご指導いただきました先生方に深く感謝し、お礼申し上げます。

受賞論文は、日本リハ医学会研修施設における胃瘻交換に対する実態調査であります。胃瘻交換に際し合併症を完全に防ぐことは難しく、適切な誤挿入予防対策やマニュアル、胃瘻交換同意書が必要であることなどを報告いたしました。また、本研究はリハ医学会研修施設の諸先生方のご協力によるものであり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。今後ともリハ医学の発展に貢献できるよう、努力していきたいと考えています。ありがとうございます。

略歴：

2004年東京慈恵会医科大学卒業後、同大学附属第三病院にて臨床研修。2006年同大学リハビリテーション医学講座入局。都立大塚病院を経て、現在東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科勤務。

「奨励論文賞」

種別：原著

掲載号：Jpn J Rehabil Med 45-5号291-295頁

題名：リハビリテーション医学会研修施設における胃瘻カテーテル交換に対する実態調査

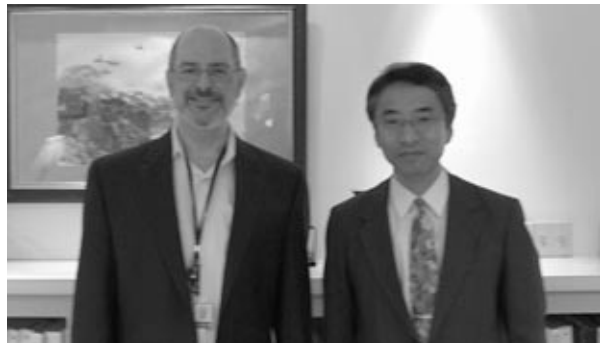
著者名：百崎 良、菅原 英和、佐々木 信幸、安保 雅博、木村 知行

2008年度 海外研修助成 印象記

加賀谷 斉

(藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座)

2008年12月に米国BaltimoreのJohns Hopkins大学、Palmer教授の研究室を訪ねました。米国を訪れるのは約10年ぶりであり、聞いてはいたのですが空港でのセキュリティチェックが厳しくなっていることを実感しました。12月であり当地はかなり寒いのではないかと思ったのですが、それほどではなくほっとしました。Palmer教授はリハ科医で米国での摂食・嚥下リハにおける第一人者であり、咀嚼嚥下に関するプロセスモデルの提唱者です。現在、川崎医科大学の関先生が留学されており、空港まで迎えに来ていただくなど大変お世話になりました。訪問中はPalmer教授、関先生と3人で昼食をとりながら摂食・嚥下に関する研究、筋の動き、電気刺激などについて楽しいdiscussionを行いました。研究室では以前、藤田保健衛生大学を訪問したことがあるGerman教授、Dr. Marlisにも会え、大歓迎を受けました。その後ワシントンDCまで関先生に車で送っていただき、NIHのLudlow教授を訪ねました。Ludlow教授は摂食・嚥下障害に関する機能的電気刺激の研究を精力的に行っています。現在、完全埋め込みシステムの治験を行っており、ある程度結果が出た時点で製品化していくかどうかを決める予定のようです。ただし、企業との契約の関係から、完全埋め込みシステムの詳細については話してもらえませんでした。藤田保健衛生大学



Palmer教授と筆者

での摂食・嚥下障害に対する機能的電気刺激の経験について“Functional electrical stimulation in treating patients with severe reduced laryngeal elevation”として1時間の発表を行いました。ワイヤー電極を埋め込んで舌骨上筋と甲状舌骨筋の電気刺激を行った研究ですが、筋の反応と動きについてはvery goodとほめていただきました。

最先端の研究に触れると自分が刺激を受けているのがわかります。海外研修助成に選出していただいた日本リハ医学会の諸先生方に厚くお礼を申し上げます。今回の海外研修で得たものを今後の診療や研究に生かしていきたいと思っています。

長坂 誠

(東北大学大学院医学研究科内部障害学分野)

今回、私は海外研修助成金を得て、ベルリンで開催された第22回国際高血圧学会（第18回ヨーロッパ高血圧学会、2008年6月15～20日）に参加した。日本からベルリンへは、直行便はなく、パリ経由で入った。EU圏内からの到着とのことでベルリンでの入国手続きはほとんどないに等しく、本当にEUがひとつの国のようになりつつあるのだと感ぜられた。ベルリン市内は、地下鉄と列車がうまく乗り入れができており、学会会場のICC（International Congress Centre）は地下鉄の駅から直接入ることができ、とても便利であった。

しかし、ICC内はととても広く、これだけ大規模な学会にもかかわらず、使われていない部屋も多かった。事実最初のお目当てのセッション

には間に合わなくなって、演題を一部聞き逃してしまう始末であった。

筆者は第3日目の“new therapeutic developments”のセッションで、ポスター発表を行った。ラットに対して電気刺激を行い、その血流量を測定したのだが、写真のできがよかったのか、“Oh! beautiful”などといわれて恐縮してしまった。ある科学者が言うには、最大の賛辞は“beautiful”とのこと。次に発表するときは画像ではなく、演題の中身でそういわれるように精進しようと思った。

また、私は自分の発表以外にもいくつかのセッションに参加した。各セッションとも臨床と基礎実験の発表が混在しており、人の出入りが激しく落ち着かない印象であった。たとえば、*in vitro*でのストレッチに



よる細胞内シグナル伝達についての研究と、脈波伝搬速度PWVと心血管疾患危険因子の関連についての研究が同じ“vascular plasticity”のセッションで討論されていた。それでも、世界でトップレベルの研究者の集まった学会での活発な討論を聞いたり、その雰囲気を感じることとはとても有意義であった。

2008年度

外国人リハビリテーション医交流印象記

氏名：Ngan Hong Anh, MD (39歳、女性)
所属：Department of Rehabilitation Medicine,
Vietnam National Institute of Gerontology,
Hanoi, Vietnam (ハノイ、ベトナム)

期間：2008年10月31日～11月7日

訪問先：東北大学大学院リハビリテーション医学講座

発表演題：“Effectiveness of low-energy shock wave therapy for patients with chronic plantar fasciitis”, “Shoulder joint injection in combination with exercises in management of frozen shoulder”, “Impairment of cognitive function in Parkinson’s disease patients”, “The roles of rehabilitation medicine in geriatric care”

日本で世話になった皆さんに感謝の気持ちを伝えることが遅くなってしまったことを、まずお詫びしたいと思います。ベトナムに帰国直後にハノイで発生した洪水への対処と、専門医試験への準備に忙殺されてしまいました。

第一に私の日本訪問について多大なるご支援をいただいた日本リハ医学会に、そして私の研修を快くお引き受けいただいた東北大学大学院リハ医学講座の先生方に厚く御礼を申し上げます。

私は日本に到着して1日目に、日本語が全く理解できないことを痛感しました。少しばかり困ったこともありましたが、東京から仙台までの小旅行を十分に楽しむことができました。そして東北大学を訪れてからは、とてもたくさんの温かな心遣いをいただきました。今回の研修で私を担当された東北大学の近藤先生は、リハ医学教室での4日間について充実したプログラムを用意してくださっていました。教室で動作解析についての講義を受けましたが、この手法は私がこれまでベトナムで見たことのない領域でとても印象的でした。3・4日目は上月正博教授から心臓リハについて2つの講義を聴くことができ、臨床現場でのご経験についてお話していただきました。上月教授からはベトナムの私の施設での心臓リハの導入についても、貴重なアドバイスをいただくことができました。東北大学での心臓リハは入院患者だけではなく、外来でも一種のクラブのような形式で行われており、それぞれの環境で運動療法が実施されている処を拝見できました。

私のキャリアにとって、今回の研修は非常に貴重な体験であったと思います。これからも日本リハ医学会のご厚情を、ベトナムの仲間たちに向けていただけることを願っています。



氏名：Gonzalez-Fernandez, Marlis, MD (34歳、女性)
所属：Physical Medicine and Rehabilitation Johns
Hopkins University, School of Medicine,
Baltimore, USA (バルチモア、米国)

期間：2008年9月24日～10月8日

訪問先：藤田保健衛生大学 リハビリテーション医学講座
藤田保健衛生大学七栗サナトリウム
川崎医科大学リハビリテーション医学教室

発表演題：“Racial Differences in Dysphagia after Stroke”, “Dysphagia after stroke: Neuroanatomical Correlates”, “Post-Stroke Dysphagia Rehabilitation in the United States”

2008年度のトラベリングフェローに参加でき、大変光栄に存じます。日本に滞在する前に、2つの目標を達成したいと考えていました。第一に、アメリカで行った研究結果がアジア人においても適応できるかを検討すること、第二に多くの日本人の研究者や医師にお会いして、今後われわれと共同研究できればよいと考えていました。



はじめに訪れたのは、藤田保健衛生大学リハ医学講座でした。日本におけるリハ医学を理解するうえで大変貴重な経験となりました。嚥下障害と呼吸器のリハを見学しました。医師とセラピストが、患者に対して最善の結果をだせるように取り組んでいる姿に感銘を受けました。

次に七栗サナトリウムを訪問しました。患者のさまざまな要求に対するリハが可能ならしい施設でした。

大学では嚥下障害とロボット研究が主に行われていました。私の興味も嚥下障害であり、これらの研究は大変興味深いものでした。ロボット装置によって、脊損患者が歩行するための研究が進められ、実際の患者にも応用されていました。

脳外科の教授で、脳梗塞に対するリハで活躍されている加藤洋子先生にお会いできたことに感謝しています。ここで、嚥下障害の進行について民族間で相違があることを発表し、脳外科の先生と一緒に議論することができました。彼女は私の研究に興味をもたれ、共同研究が可能になったことに感謝しています。

川崎医科大学リハ医学教室では、われわれの神経解剖学における知見について発表することもできました。

すばらしい日本のホスピタリティを体験し、多くの日本文化とおいしい食事を楽しむことができました。さまざまな都市に観光できたことも貴重な経験になり感謝しています。

はじめに

ある朝、台所で「トントントン」と音がする。すぐ起床し確かめようとするも中々体がいうことをきかない。『おかしいな……』こんなことなかったのに。それは、出勤前、夫が朝ごはんの用意をする音だった。

この時、自分が関節リウマチ (RA) の初めての症状であることには、全く気がつかなかった。それでも当時、幼稚園に重い体を引きずりながら出勤し、子ども達との園生活に何時の間にか節々の痛さを忘れ、飛び回っていたものでした。それから、2年間、日を増すごとに手足の機能がおもわしくなく「なぜだろう」何か変な病気に罹っているのではと、不安な毎日でした。そこに、園医であり、ある大学の有名な整形外科教授の先生に「毎日毎日、体を動かすのがとても辛い」ことを話すと、『チョットそこを歩いてごらん』と、私の動作を見るなり『あす、大学で受診を下さい』即座に指示を受けました。時に42歳、RAに罹患して26年である。現在、間質性肺炎と、肺癌を患い闘病中である。

現状について

RAは、発症して「2年間の治療が最も大切な時期」と色々な先生方の講演で言われている。けれども、その時期は、いわば人生の中で一番の働き盛り、思うような診察と加療ができない状況もこれしかりである。RAの発症年齢は、40～50歳代が最も多いとの現実。私自身、的中している。ジャンボくじに当たるのは大歓迎だが、このようなものには本当に、ごめんなさいと避けられるものならの思いである。

膝関節の滑膜切除を15～16回『これほど手術するのは珍しい』との主治医の弁。この膝関節の滑膜切除から今日まで大小あわせ、ことリウマチに関して18か所、私の体にメスが入られている。それぞれ、先生方の名前が手術部位毎に、壮烈に名前が刻まれ傷痕となっている。手足の変形のない関節リウマチ、この症状もまた珍しいとの診断。見た目には何ともない普通の状態。しかし、年を経るごとに極端な運動機能の低下。適宜の筋肉を強化をとの指導に水泳教室への通い、水中での歩行訓練。少しずつ歩行困難さが顕在化する中で、なんとか自力で筋力をつけようと努力してきたが、家族の手助けとインストラクターの手を借りなければならないようになると、自然と足が遠のいてしまった。それでもこの水泳教室は、気分転換と適度な筋力増強が目に見え、体を動かすことからの食事の量が増え、薬効も体の症状も好転していたと自負していた。ある意味で、とても有意義なりハでもあったと自己診断。

以下に主な症状と治療を記してみると

- 1) 両足底骨切り (歩行困難解消のため)
- 2) 右足首腱断裂手術
- 3) 両手首骨切り (両手の平を反すため)
- 4) 両肩の手術 (両手が90度上へ、上がらない)
- 5) 右膝関節人工置換術 (2度置換術)
- 6) シェーグレン症候群
- 7) 胃潰瘍、逆流性食道炎

8) 間質性肺炎、肺癌 (治療方法がない)

9) その他、四肢機能低下による転倒、手足の骨折。自分は、ちょっとした高さを越したつもりがそうでない等。

問題点

近年、医療技術と新薬の目覚ましい開発はRA患者にとって、朗報である。しかしながら現在の医療制度は、人間を大事にするのか物を大事にするのか、私たち患者にとって不安な毎日を過ごしている冷たい現実を直視しなければならない。

年々増大する医療費。誰が悪いとか正しいとかの問題点を突き詰めるのではなく、現実の患者をどう健全な体に戻すかが、最低限の医療制度の理念あるいは基本である。日本の医療制度は、予防医療制度の貧困化であり病気になるなければ治療を受けることができないこと。火事は、小さい内に消火するのが財産の消失を最低限に抑えることができる。つまり、健康診断の充実化を図ることが費用対効果を最大限発揮できるのではないのでしょうか。

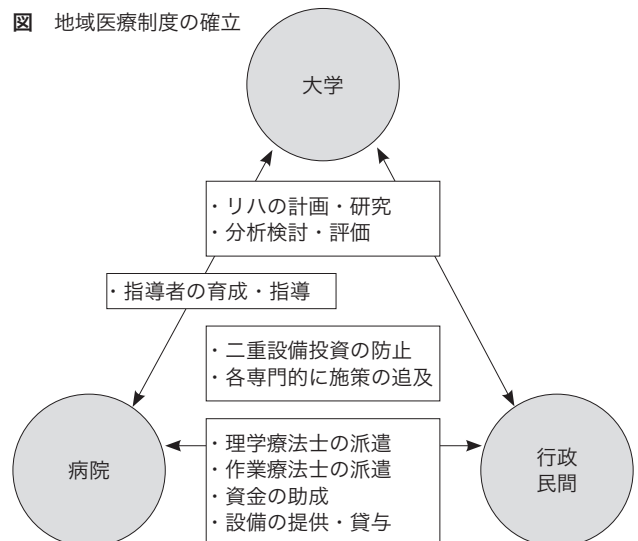
政府の医療費の抑制策は、私たちリハを必要とする患者にとって被害甚大である。時間と日数の制限は、なにもものにも代え難い屈辱である。もう少しリハをすると、日常生活に大きく寄りできるものが、予算の縮減によって中途半端となっている。健康体に戻れば、仕事に復職することも可能な一面もある。国の税収面にも当然反映することもなる。一方病院で受診リハの部屋を見渡せば、立派なりハの設備が遊休化していることも見受けられ、療法士の方々の生き生きした姿を見出すことができない。

対策と課題

今後の対策として、次のとおり整理したい。

- 1) 予防医療制度の確立：具体的に現在の健康診断制度の中身を精査し、重篤な病気の早期発見に努める。
 - 2) 地域医療制度の確立 (図)
- 少々、掘り下げた分析ができず一般論となりましたが、医療制度の発展につなぐ一助になればと願う次第です。

図 地域医療制度の確立



＜システム委員会＞

システム委員会の現況報告とお願いをいたします。

リハ学会会員用webシステムは昨年度から運用が開始されています。会員番号調べや認定単位確認にご利用いただきましたでしょうか。専門医会はメールマガジン、掲示板を積極的に活用してくれています。全会員、評議員用の掲示板は少々寂しい状況にありますが、昨年度末に利便性改善修正を行った委員会掲示板の利用度は増えています。

メールマガジンやアンケート、(今後構築する方向にある)ウェブ選挙は、会員の皆様の登録数が増えないと利用価値が低くなってしまいます。6月18日現在、2,454名の登録(うち、専門医1,007名)であり、さらなる登録増が切に望まれます。

登録増加の目的で、5月の理事会にて「抄録登録はリハ学会会員用webシステムのページを経由して貰う」ことが了承されました。6月の評議員会、総会でも報告・周知されています。次回のリハ学会への抄録作成時にはリハ学会会員用webシステムご登録の上、会員ページに到達して、そこから抄録登録ページに進んでいただくこととなりますのでご承知おきください。

今後、会員属性を掲示板に自動的に反映させて、例えば女性リハ科専門医の会の掲示板なども作れるような仕組みを導入していきたいと考えています。(委員長 園田 茂)

＜認定委員会＞

1. 専門医・認定臨床医資格の同時更新

今回の更新から専門医資格の更新に合わせて、規定された認定臨床医の単位を取得された方は、専門医と認定臨床医資格を同時に更新することができるようになりました。必要とする条件を満たされた先生方には今後更新申請に関する書類を送付させていただきますので更新手続きをよろしくお願いいたします。

2. 専門医活動報告書提出のお願い

該当される先生方には文書でお伝えしておりますが、専門医資格を更新するには5年間で200単位を取得することに加え、専門医活動報告書を提出することが必須となっています。現在まで専門医活動報告書が未提出の先生には所定の文書に記載の上必要とする資料を添えて学会事務局まで提出いただきますようお願いいたします。

3. 研修施設関係書類のWebシステム化

本医学会では個々の会員に関する情報についてはWebシステム化されておりますが、現在認定委員会では研修施設に関しても登録施設の新規申請および変更、5年ごとの資格更新、年次報告に関する情報についてWebシステムを利用した申請手続き等を具体的に検討しております。今後詳細について決まりましたら、学会誌やHPを通じてお知らせさせていただきます。

(委員長 菊地 尚久)

＜障害保健福祉委員会＞

障害保健福祉委員会は地域リハ、障害者スポーツ、障害福祉等を3本柱として活動してします。ここに今年度の活動計画を紹介いたします。

2009年1～3月に行われました地域リハwebアンケートでは374名の会員から回答をいただきました。ご協力どうもありがとうございました。今後、地域リハのあり方とリハ医の役割について分析結果を報告する予定です。

この4月に障害者スポーツ関係団体リスト等のホームページ(会員、市民向け)の更新を行いました。まだ、ご覧になっていない会員の方は是非とものぞいて見てください。障害者が健康づ

くりや体力向上のためにスポーツに参加し、リハ関係者が障害者の体力やスポーツに関心をもつきっかけとなるように標準的な障害者の体力評価方法があればよいと考えています。今年度は、障害者の体力評価方法などの文献収集を行う予定です。将来的には「障害者体力評価法ガイドライン」の作成につなげていこうと考えています。

障害者自立支援法3年後の見直しを踏まえ、身体障害のみならず、精神、知的障害や制度の狭間にある高次脳機能障害、発達障害を含めた障害者の支援制度全般にわたり会員に必要な知識・情報を分りやすく解説する「リハ医のための障害者支援ハンドブック」作成の準備年度といたします。(委員長 榎本 修)

＜評価・用語委員会＞

4月に委員の交代がありました。評価・用語委員会の委員を長く務めてくださった佐賀大の浅見先生と交代して、宮城県の長町病院院長の水尻強志先生が新たに委員に加わりました。リハ医学に関するブログをこまめに更新されており、医学情報誌に取り上げられたことも有る先生で、リハ医学用語のオンライン事典化に向けての戦力として期待しております。

病名を電子的に扱う際に標準コードを用いることが必要であり、電子カルテやオンラインレセプト請求ではMEDIS-DCが管理している標準病名の使用が推奨されています。リハ医学用語集第7版の標準病名への採用状況を確認したところ、未掲載の語が多いことが分かり、昨年末に100語強の追加要望を行いました。そのうち第一陣として、ビタミンD欠乏性くる病、開張足、舟底足、尺側偏位、延髄出血、パンコースト症候群、ムチランス変形、脳梁離断の8語が6月1日に追加登録されました。標準病名を採用している施設の皆様におかれましては、システム管理者に標準病名のアップデートの依頼をいただくと使用可能な病名が若干増えるかと存じます。要望の残りについては、今後、逐次追加いただけるものと考えております。

(委員長 根本 明宜)

＜脳卒中治療ガイドライン策定委員会＞

脳卒中治療ガイドライン策定委員会の活動状況についてご報告いたします。

日本脳卒中学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本神経治療学会、日本リハ医学会の5学会による合同ガイドライン委員会により「脳卒中治療ガイドライン2004」が刊行され5年近くが経過しました。今回は、脳卒中のリハのEBMを念頭に置き、エビデンスレベルの高い文献を中心にまとめておりますが、臨床応用が難しい面もあったかと思えます。日本リハ医学会のホームページ上でパブリックコメントを募集し、改めてエビデンスを再検討し追加を重ね、「脳卒中治療ガイドライン2009」の刊行に向けて準備を行っています。改訂版では、「リハ」と「脳梗塞」・「脳出血」などのセクションとの整合性を図ること、エビデンスを再考した上で推奨を作成すること、日常診療において使いやすくする工夫として具体的な解説を行い「附記」を追加することなどを検討し、現在、最終校正を提出したところです。

「ガイドライン2009」が刊行された折には、是非会員の皆様のご意見を伺いたいと存じます。よろしく願います。

(委員長 中馬 孝容)

＜広報委員会＞

リハニュース第44号(2010年1月刊行予定)について

いつも本誌をご愛読いただきありがとうございます。さて、

広報委員会ではこの度、2010年1月刊行予定のリハニュース第44号を「医学生・研修医のためのリハビリテーション医学ガイド（仮題）」として刊行することとなりました。リハ科医師の魅力を分かりやすく伝える誌面とし、リハ医学への志を促すためのパンフレットとしてご活用いただけるよう現在鋭意作成中です。なお、これに伴いまして第44号の各種お知らせ等は休載とさせていただきます。会員の皆様にはご了承の程、よろしく願い申し上げます。（委員長 山田 深）

＜北海道地方会だより＞

今後の北海道地方会の予定をご連絡します。2009年9月5日（土）の午後1時から北海道大学医学部臨床講義棟大講堂で第20回日本リハ医学会北海道地方会ならびに専門医・認定臨床生涯教育研修会を開催いたします。例年通り北海道医学大会の分科会としての開催です。本稿がお手元に届く頃には一般演題の募集は終了しております。教育研修会では「脊髄損傷者における日常診療のポイント」（和歌山県立医科大学リハ医学教授・田島文博先生）と「局所性ジストニアの神経ブロック治療の実際」（北海道大学病院リハ科・松尾雄一郎先生）の2講演を予定しています。また、2010年3月6日（土）に北海道大学医学部で専門医・認定臨床生涯教育研修会を開催いたします。詳細は決まり次第、地方会ホームページ（<http://www.med.hokudai.ac.jp/~reha-w/jarmhok/index.html>）に掲載いたします。▶北海道地方会では地方会や研修会開催などの重要事項をメールマガジンでお知らせしています。メールマガジンを受け取るためにはリハ医学会ホームページで会員用Webシステムへの登録が必要です。是非ご登録ください。（代表幹事 生駒 一憲）

＜北陸地方会だより＞

これまで、地方会会場として長い間利用してきました石川厚生年金会館が閉鎖され、開催できる会場を検討しておりましたが、金沢駅前のホテル金沢が地方会について好意的に対処していただけることとなりました。代表幹事も立野勝彦先生から染矢富士子に交代し、新しい会場でのスタートを切る目処が立ちました。会員の先生方からの、ご意見、ご希望を引き続き承りますので、ご連絡の程宜しく願いいたします。▶さて、今回の地方会ですが、2009年9月5日（土）に開催いたします。専門医・認定臨床生涯教育研修会では、広島県立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能センター長の丸石正治先生に「高次脳機能障害の病態と機能画像：社会的行動障害に焦点を当てながら」をテーマにご講演をお願いしております。前回の地方会同様、丸石先生も2009年の日本リハ医学会最優秀論文賞を受賞されており、最近の知見について得るものが多いのではないかと思います。もう一つのご講演は金沢市立病院呼吸器内科／呼吸器・睡眠センターの中積泰人先生の「睡眠時無呼吸症候群（SAS）について」です。中積先生は米国認定睡眠ポリグラフラーでもあり、SASの根本的な治療として減量が最も重要であると考えています。会員の先生の多数のご参加をお待ちしております。

（代表幹事 染矢 富士子）

＜中部・東海地方会だより＞

中部・東海地方会では、第25回地方会学術集会と専門医・認定臨床生涯教育研修会を2009年9月5日（土）に予定しています。研修会は川平和美先生（鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハ医学教授）に「片麻痺への促通反復療法の理論と実際：効率的な神経路強化を目指して」を、鈴木 亨先生（藤田保健衛生大学医療科学部リハ学科教授）に「脊髄損傷の歩行再建：装具療法か

らロボットまで」をご講演いただきます。ご参加のほど、よろしく申し上げます。▶また、中部・東海地方会の後援で第4回リハ科専門医学術集會を2009年10月16日（金）～18日（日）下諏訪総合文化センターに於いて開催致します。一般演題とポスターセッション演題の募集および事前参加登録、宿泊のご案内を開始しております。詳細は第4回リハ科専門医学術集會ホームページ（<http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/suwa/>）または、日本リハ医学会ホームページ（http://www.jarm.or.jp/member/member_specialists/）でご確認ください。▶2007年5月より中部・東海地方会のHPを開設しております。学会ならびに専門医・認定臨床生涯教育研究会の詳細はHP（<http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/chubutokai/>）をご覧ください。（代表幹事 才藤 栄一）

＜近畿地方会だより＞

第27回日本リハ医学会近畿地方学術集會を2009年9月5日（土）に大阪府高槻市にある大阪医科大学新講義実習棟1階P101室で開催します。13時より一般演題講演、16時より教育講演2題の予定です。▶最先端の話題からリハ医療に難渋する症例検討まで幅広く演題募集しますので奮ってご応募ください。E-mailで演題名、演者名、共同演者名、各所属名、約400字の抄録をreh004@poh.osaka-med.ac.jp まで送信してください。演題締切：7月31日（金）。必ず受信確認の連絡を2、3日以内にいたしますので、受信確認連絡がない場合にはご連絡ください（TEL 072-683-1221、FAX 072-864-6336、大阪医科大学リハ医学教室、村尾 浩）。また、近畿地方会での発表もリハ科専門医受験の必要項目にカウントされますので、専門医受験を目指す若手の先生方にこの機会のご利用をお勧めします。教育講演は名古屋市総合リハセンター第二リハ部長小川鉄男先生の「脳外傷による高次脳機能障害と職能訓練」と、大阪医科大学リハ医学教室講師田中一成先生の「腰痛症に対するリハのエビデンス」の2講演です。▶多数の会員の皆様のご発表とご参加、活発な討論をどうぞよろしくお願いいたします。

（第27回学術集會会長 村尾 浩）

＜九州地方会だより＞

今回、第26回九州地方学術集會は、水田幹事（熊本大学大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野教授）の担当で、本年9月13日（日）、熊本市・崇城大学市民ホールで開催されます。午前は一般演題発表が行われ、午後から生涯教育研修会が開催されます。近藤和泉先生（藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所リハ研究部門教授）に「脳性麻痺における痙縮治療の進歩とリハビリテーション医療」を、池田学先生（熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学分野教授）に「記憶障害の臨床」を、そして植田尊善先生（総合せき損センター副院長兼リハ科部長）に「脊椎脊髄損傷の臨床—救急から車椅子スポーツ、社会復帰までの実際、ITB療法も含めて—」をご講演いただきます。それぞれエキスパートの先生のご講演で認定臨床医を目指される方の教育研修講演にも該当します。多くの皆様のご参加をよろしく願い申し上げます。詳細は学会誌6月号もしくは九州地方会ホームページをご覧ください。▶九州地方会事務局の産業医科大学から鹿児島大学への移転に伴い、当地方会のホームページアドレスも<http://kyureha.umin.ne.jp/>へと変更となりました。九州地方会をはじめ各県単位で開催される生涯教育講演の予定も随時更新しております。どうぞご利用ください。（事務局担当幹事 下堂 蘭 恵）

大阪医科大学附属病院は、1927(昭和2)年に開校した日本初の5年制医学専門学校「大阪高等医学専門学校」の附属病院として開院し、1954年には全国に先駆けて、リハビリテーション(リハ)部門(物理療法室)が設置されました。その後、1981年には小野村敏信整形外科教授(当時)が初代部長となり、約1,200㎡という大学病院では他に類を見ないリハセンターへと大きく飛躍しました。以来、教職員と設備の充足が行われてきましたが、2008年5月に総合医学講座リハ医学教室が創設され、佐浦隆一(神戸大学1986年卒)が初代教授として就任しました。あわせて大学院博士課程(リハ医学)も整備され、卒前はもとより卒後リハ医学教育の充実、高度専門化を担っています。

診療部門は1998年よりリハ科を標榜し、施設基準(2009年4月現在)は総合リハ施設、言語聴覚療法Iを届け出しています。医師数は教員6名(専門医4名)、医員(非常勤)3名、レジデント1名、大学院生1名であり、リハ技術員は理学療法士19名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、技術補助員4名、看護師3名が配置されています。対象となる領域は、大学病院として重要な急性期リハ医療を中心に、各教官が専門外来(関節リウマチ、痙縮、神経筋疾患、小児、内部障害、義肢装具など)を行っています。また、医療相談部と連携し、入院患者の適切な転院や在宅復帰のための支援に努め、徒歩圏内の回復期リハ病院にリハ専門医(常勤)を派遣することにより、大学・一般病院を繋ぐ急性期から回復期への連携モデルの構築を試みています。このほか老人保健法機能訓練事業や肢体不自由児療育にも積極的に参加しています。

卒前教育では系統講義・PBL(Problem Based Learning)、クリニカルクラークシップを担当しているほか、他大学からの臨床実習生も受け入れ、卒後教育では症例検討会、抄読会、



大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL 072-684-6510 FAX 072-684-6336

URL : <http://www.osaka-med.ac.jp/deps/reh/index.html>

専門医試験勉強会、セミナー、他大学やリハ施設との合同勉強会・症例検討会などを行っています。

研究面では関節疾患の病態や関節拘縮に対する基礎および臨床研究、内部障害に対する運動療法の有用性の検討や装具の研究・開発(「大阪医大式」の名を冠した装具も多く、特に「オルトトップAFO」は全国で年間約7,000個の作製実績があります)、また、英国インペリアル大学、関西大学や神戸大学との共同研究、医工連携も積極的にすすめています。

高槻市はキリシタン大名として有名な旧城主、高山右近のもとに栄えた城下町で、歴史文化の深い土地です。大阪と京都の中間に位置しており、どちらにもJRで15分の好立地です。当科でのリハ研修希望の方の連絡をお待ちしています。あわせて、今後、新しいリハ医学講座として日本のリハ医学の発展に貢献すべく尽力して参りますので、宜しくご指導、ご鞭撻をお願いいたします。(田中 一成)

REPORT

2009年度春期医学生リハセミナー報告

2009年度の春期医学生リハセミナーには、現在までにご連絡をいただいている分だけで計6名の参加がありました。以下に参加した医学生から寄せられた感想文を掲載いたします。

(教育委員会 医学生セミナー担当
芳賀 信彦)

【医療法人野並会 高知病院：春休み】

先日、夜行バスに乗って高知を訪れた。高知病院でリハセミナーを受けるためだ。高知を訪れるのは初めて、夜行バスに乗るのも初めて、病院でセミナーを受けるのも初めてと初めてづくしだったので、内心非常に緊張していた。

高知病院は主に回復期のリハを行う病院だそうで、施設もそれに対応したものだと思った。「思えた」と漠然と表現しているのは、リハにつ

いてよく分かっていなかったからだ。今現在もリハについての授業を受けていないから、この先勉強が始まってから「ああ、あの時のあれはこういうことだったのかあ」と思えることを期待したい。

とはいえ、回復期リハというのは、看護と理学療法(PT)・作業療法(OT)・言語療法(ST)がそれぞれ連携しあってADL(日常生活動作)を改善し、在宅復帰を目標にしているというのがよく分かった。

実際、PT・OTさんが患者さんにリハを行っている現場を見せてもらい感じたのは、患者さんが目標を持って取り組んでいるだけでなく、PT・OTさんも一緒に目指しているように思えた。決して、上から目線で「やってやるか」みたいな感じではなく、二人三脚で取り組んでいるようだった。

リハセミナー参加してみて、これまで全く知らなかった治療以外の世界が見えたような気がした。とともに、なぜチーム医療が大事なのか、その片鱗に少し触れたような気がし、本来の目的以上に大きな収穫を得たような気がした。

【藤田保健衛生大学：GW】

今回、参加人数が1人だと聞いたときは、正直どうしようかと思いました。しかし七栗サナトリウムの先生方が熱心に教えていただき、参加して本当に良かったと思いました。ポリクリでできなかった体験ができ、よりリハに興味を持つことができたと思います。また次回、機会があれば参加してみたいと思います。次は、リハ医の先生が実際の患者の診察を行い、訓練や入院の計画を立てる現場を見学してみたいです。

九州地方会 市民公開講座 「寝たきりにならないために—高齢者とリハビリテーション—」

2009年3月7日(土)、大分市コンパルホールにて日本リハ医学会主催の市民公開講座が行われた。参加者は156人であり、13時開場に対して2時間以上も前に到着して開演を待つ参加者も多くいた。世話人代表の津村 弘教授から挨拶があり、脳卒中・運動器疾患の概説と現在の医療事情、新たな治療法に関して説明があった。その後、産業医科大学リハ医学講座教授の蜂須賀研二先生には「直ぐに役立つ脳卒中リハビリテーションの要点」と題して、脳卒中の病因からリハ治療までわかりやすく説明していただいた。特に自分

のできる脳卒中の予防法に関してほとんどの参加者がメモをとる姿が印象的であった。また講演後の質問は時間が足りないほど活発であり、参加者の積極的な姿勢がうかがえた。国立障害者リハビリテーションセンター病院長である赤居正美先生には「運動器疾患のリハビリテーション；治療介入の目指すもの」と題して、行政の考えなどを踏まえて運動器疾患に対する予防から治療まで詳しく講演していただいた。事前にスライド内容を配布資料として渡しておいたので、講演の内容が理解しやすく、積極的にメモをとる参加者が多く見られた。

両講師の講演は大幅に予定時間を過ぎたにもかかわらず、参加者は最後まで席を立たず、熱気にあふれる市民公開講座であった。市民がリハの重要性を認識し、かつより良いリハを求めていることをスタッフ一同痛感し、身の引き締まる思いであった。この場をお借りして関係者の皆様に深謝申し上げるとともに、市民の期待に十分に込めるべく、日夜研鑽に励むことを誓った。

(大分大学医学部整形外科・
付属病院リハ部 片岡 晶志)

第50回 日本神経学会

第50回日本神経学会総会は糸山泰人東北大学神経内科教授が会長を務め、2009年5月20日～22日、仙台にて行われた。創立50周年の節目を迎えた今回のテーマは「**神経学・半世紀の進歩～飛躍の未来に向けて～**」であった。名古屋大学名誉教授の高橋昭先生による「日本神経学会 誕生と発展」と題した記念講演を始め、50周年を記念するシンポジウムや講演ビデオ上映等が盛況のうちに行われた。50周年記念シンポジウムでは学会創立時よりの歴史、世界から見た日本神経学会

の発展、神経学会の社会貢献、学会の未来に向けての展望等について各々の視点からの話があり、50年という長い道のりを辿り今日に至った過程を実感することができ、今後の展望も見えてきたように思った。他にも神経難病の原因究明に向けた分子生物学的な研究や再生医学・遺伝子治療の現状と展望、認知症の診断と治療開発、脳梗塞に対する最新の対策等様々なセミナーが行われた。中でも神経難病医療ネットワークの構築において、多専門職種によるチームの一員としてのリハ科専門医のより積極的な関与を

期待する発言が印象的であった。

日本神経学会は2008年12月1日より中間社団法人から一般社団法人に移行したが、その新法人法に対処するための定款改定に関する論議、決議が総会でも行われた。特に評議員、理事の選出等に関してこれからは大きく変わるものとされている。日本リハ医学会も同様に過渡期を迎えており、参考になった。第51回日本神経学会総会は2010年5月20日～22日に東京で行われる予定である。

(白浜はまゆう病院リハビリテ
ーションセンター 小口 健)

〇〇〇 広報委員会より 〇〇〇

リハニュース42号をお届けします。

本号の特集は、水間理事の「2009年度介護報酬改定に関して」と吉永理事の「診療報酬改定に向けて」の記事の2本立てになっています。水間理事には、本年度行われた介護報酬改定についての概要とリハ医学会からの提言がどのように反映されているかについての概説をしていただきました。吉永理事には、2010年度に行われる診療報酬改定へ向けての診療報酬改定に向けての委員会の取り組み状況について概説していただきました。診療報酬と介護報酬の改定は、リハをどのように展開していく

のかを考える上で非常に重要です。両理事には限られた字数でお願いをしていますので、十分にご自分のお考えを述べることは困難であったと思いますが、本特集をお読みいただいた皆様から、リハ医学会に有用なご意見をお寄せください。

また、連載記事の「リハ医への期待」も患者さんから寄せられた生の声をお伝えする学会のニュースレターとしては斬新な試みであり、会員の皆様にとっても興味深い内容だと思いますので、診療の参考にしていただければ幸いです。
(阿部 和夫)

●運動制御の研究成果を臨床実践に結びつける定評ある解説書の新装改訂版!!

モーターコントロール

運動制御の理論から臨床実践へ

原著第3版

■田中 繁 (国際医療福祉大学大学院福祉援助工学部門教授)

高橋 明 (いわてリハビリテーションセンター長) 監訳

■A4変型判 642頁 2色刷 定価10,290円 (本体9,800円 税5%)

◀最新刊▶

◆原著第3版の主な内容

●正常な運動制御、生涯にわたる運動発達、理学療法と作業療法の領域におけるリハビリテーション、そして運動学と運動練習に関する科学的かつ実験的な基礎と、その科学性をいかにして臨床実践に応用するかを解説したリハビリテーション関係者の必読書。新装改訂版では、判型が大きくなり、2色刷りとなってさらに読みやすくなっている。

●原著第3版では、章の編成を変更し、新しい運動制御理論に基づき、まず姿勢やバランスの制御、移動性、上肢機能に関連する運動制御問題への基礎を分かりやすく解説。各章に学習目標を加え、実習の利用を強化し、回答のヒントを各章の終わりに加えた。また最後の、臨床に関わる3つの各章には、アセスメントと治療処置での有効性に関する研究を、レビューを拡張するものとして加えている。



ISBN978-4-263-21333-9

●弊社の全出版物の情報はホームページでご覧いただけます。 <http://www.ishiyaku.co.jp/>



医歯薬出版株式会社 / ☎113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10/

TEL.03-5395-7610
FAX.03-5395-7611

CR2020新 2009年6月作成 TP

待望の改訂版テキスト! 最新情報の追加と内容の更なる充実。

現代リハビリテーション 医学

改訂第3版

編集 千野 直一

慶應義塾大学名誉教授

本書は、リハビリテーション医学の
代表的教科書として、医学生はもとより、
コメディカル養成校で採用され、高評を博している。



B5判 672頁 504図 原色16図 定価9,240円 (本体8,800円+税5%)

ISBN978-4-307-25142-6

最新3版の特色 ●【再生医療】などの新しい章を新設するなど、リハビリテーション界をとりまく動向、環境変化から、今後を見据えた項目立て。●リハビリテーション医学の進歩およびこれらの社会情勢の変化を考慮して、いよいよ重要性が高まる【地域医療連携】の最新事情を追加するなど、内容が大幅にバージョンアップ。

おもな内容 リハビリテーション医学総論／機能解剖・生理学／臨床運動学／リハビリテーション診断学／機能障害の評価とリハビリテーション／日常生活動作(活動)の評価／リハビリテーション治療学／リハビリテーション医学各論／リハビリテーション治療・訓練処方／在宅リハビリテーション／再生医療とリハビリテーション医学／スポーツ医学とリハビリテーション／付 リハビリテーション社会学



金原出版

〒113-8687 東京都文京区湯島2-31-14 電話03-3811-7184 (営業部直通) FAX03-3813-0288
振替00120-4-151494 ホームページ<http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



骨粗鬆症治療剤・骨ページェット病治療剤

ベネット錠 17.5mg

リセドロン酸ナトリウム水和物錠

薬価基準:取載

劇薬・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



〔資料請求先〕

武田薬品工業株式会社 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

(0905)



新発売

A-IIアンタゴニスト

ニューロタン錠 100mg

(ロサルタンカルウム錠) <薬価基準取載>

指定医薬品・処方せん医薬品：注意——医師等の処方せんにより使用すること
 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.



BANYU
 A subsidiary of Merck & Co., Inc.,
 Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元〔資料請求先〕
万有製薬株式会社
 〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
 ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

2009年3月作成 03-14-CZR-09-J-A27-J

お知らせ

詳細は <http://www.jarm.or.jp/>
(開催日、会場、主催責任者、連絡先)

【専門医会】(40単位)

●第4回リハビリテーション科専門医会学術集会：10月16日(金)～18日(日)、下諏訪総合文化センター、朝貝芳美(信濃医療福祉センター)、Tel 0266-27-8414、宿泊申込締切：8月15日(土)、演題募集締切：8月17日(月)、事前参加登録締切：8月31日(月) 詳細は本紙pp6-7掲載、http://www.jarm.or.jp/member/member_specialists/

【地方会】

●第20回北海道地方会等(30単位)：9月5日(土)、北海道大学医学部臨床講義棟大講堂、生駒一憲(北海道大学病院リハ科)、Tel 011-706-6066、Fax 011-706-6067

●第26回北陸地方会等(30単位)：9月5日(土)、ホテル金沢、染矢富士子(金沢大学医薬保健研究域保健学系)、Tel 076-265-2624、Fax 076-234-4375、演題締切：7月31日(金)

●第26回東北地方会等(30単位)：10月24日(土)、マリオス18F188会議室、本田 恵(帰厚堂南昌病院)、Tel 019-697-5211、E-mail: cvs@yamada-planning.co.jp、演題締切：8月31日(月)

●第23回中国・四国地方会等(30単位)：7月19日(日)、アイテムえひめ(愛媛国際貿易センター)、木戸保秀(松山リハビリテーション病院)、Tel 089-975-7431、Fax 089-975-1670

●第25回中部・東海地方会等(30単位)：9月5日(土)、大正製薬(株)名古屋支店、田中宏太佳(中部労災病院リハ科)、Tel 052-652-5511、Fax 052-652-9214

●第27回近畿地方会等(30単位)：9月5日(土)、大阪医科大学 新講義実習棟 P101室、村尾 浩

(大阪医科大学総合医学講座リハ医学教室)、Tel 072-683-1221、Fax 072-684-6336、演題締切：7月31日(金)

●第43回関東地方会等(30単位)：9月12日(土)、東京慈恵会医科大学1号館3階講堂、大橋正洋(神奈川県リハビリテーション病院)、Tel 0462-49-2652、Fax 0462-49-2502、演題締切：8月15日(土)

●第26回九州地方会等(40単位)：9月13日(日)、崇城大学市民ホール、水田博志(熊本大学大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野)、Tel 096-373-5226、Fax 096-373-5228

【専門医・認定臨床生涯教育研修会】

●中部・東海地方会(30単位)：8月29日(土)、静岡グランドホテル中島屋、藤島一郎(浜松市リハビリテーション病院)、Tel 053-471-8331

●近畿地方会(20単位)：11月7日(土)、兵庫県民会館、中野恭一(兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院リハ科)、Tel 078-927-2727、Fax 078-925-9203

【実習研修会】(20単位)

◎平成21年度第13回義手・義足適合判定医師研修会アドバンス・コース：1回目/9月6日(日)(講義、岡山コンベンションセンター)、7日(月)(処方実習、岡山労働基準監督署)、2回目/10月5日(月)(仮あわせ実習、岡山労働基準監督署)、徳弘昭博(吉備高原医療リハビリテーションセンター)、Tel 0866-56-7141、申込締切：7月31日(金)

◎第7回小児のリハビリテーション実習研修会(脳性麻痺を中心に)：9月10日(木)～12日(土)、聖ヨゼフ医療福祉センター、森下晋伍(聖ヨゼフ医療福祉センター)、Tel 075-462-7621、E-mail: morishita@joseph-kyoto.com

◎第10回脊髄尿路管理研修会(脊損医療教育普及会)：10月3日(土)～4日(日)、兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院、住田幹男(関西労災病院リハ科)、仙石 淳(兵庫県立総合リ

ハビリテーションセンター中央病院泌尿器科)、Tel 078-927-2727、E-mail: info_hp@hwc.or.jp、申込締切：9月4日(金)

◎第12回臨床筋電図・電気診断学入門講習会：10月3日(土)～4日(日)、慶應義塾大学医学部信濃町キャンパス内新棟11、里宇明元(慶應義塾大学医学部リハ医学教室)、担当：長谷・曾我、Tel 03-5363-3833、E-mail: daihyou@reha.med.keio.ac.jp、申込受付：8月1日～31日

◎第1回嚙下障害実習研修会(嚙下内視鏡実技習得を中心に)：11月14日(土)浜松市リハビリテーション病院、15日(日)聖隷三方原病院、藤島一郎(浜松市リハビリテーション病院)、Tel 053-471-8331、E-mail: sasagase@sis.seirei.or.jp、申込締切：9月30日(水)

【関連学会】

第15回日本摂食・嚙下リハビリテーション学会学術大会(30単位)：8月28日(金)～29日(土)名古屋国際会議場、(株)オフィステイクワン(担当：山田)、Tel 052-930-6145

●●認定臨床医受験資格要件：認定臨床医認定基準第2条2項2号(認定臨床医受験資格要件)に定める指定の教育研修会、◎：必須(1つ以上受講のこと)

広報委員会：田島文博(担当理事)、山田深(委員長)、阿部和夫、安倍基幸、大高洋平、志波直人、野々垣学、平岡崇

問合せ・「会員の声」投稿先：「リハニュース」編集部〒113-0032東京都文京区弥生2-4-16(財)学会誌刊行センター
Tel 03-3817-5821 Fax 03-3817-5830
E-mail: r-news@capj.or.jp
製作：(財)学会誌刊行センター
印刷：三美印刷(株)

エーザイは、「運動器の10年」活動のパートナーとして運動を推進してまいります。

薬価基準収載 検体検査実施料収載

エーザイ販売の主な **運動器疾患における治療薬・診断薬**

創薬・指定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
骨粗鬆症治療剤

アクトネル[®]錠2.5mg
骨粗鬆症治療剤/骨ページェット病治療剤

アクトネル[®]錠17.5mg
〈リセドロン酸ナトリウム水和物錠〉

骨粗鬆症治療用ビタミンK₂剤

グラケ[®]カプセル 15mg
〈メナテレン製剤〉

指定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
筋緊張改善剤

ミオナール[®]錠 50mg 顆粒 10%
〈エペリゾン塩酸塩製剤〉

末梢性神経障害治療剤

メチコバル[®]錠 250μg 錠 500μg 錠 0.1%
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

メチコバル[®]注射液 500μg
〈メコバラミン製剤〉

創薬・指定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
組織活性型鎮痛・抗炎症剤

インフリー[®]カプセル 100mg
インフリー[®]Sカプセル 200mg
〈インドメタシン ファルネシル製剤〉

指定医薬品
経皮吸収型鎮痛消炎剤

フェルビナクテープ 70mg「EMEC」[※]
〈フェルビナク貼付剤〉

創薬・指定医薬品
鎮痛・抗炎症・解熱剤

ロキソプロフェン錠 60mg「EMEC」[※]
〈ロキソプロフェンナトリウム水和物錠〉

低カルボキシル化オステオカルシンキット
血清中低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)測定用医薬品

ピコルミ[®] ucOC[※]
〈電気化学発光免疫測定法〉

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

hvc Eisai エーザイ株式会社 商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室
ヒューマン・ヘルスタリア 〒112-8068 東京都文京区小石川4-6-10 ☎ 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)
<http://www.eisai.co.jp>

SE0807-3 2008年7月作成